

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名：八幡市

プロジェクト名	シビックプライド醸成プロジェクト ～観幸・出逢いのまち やわた～	実施期間	平成28年度～ 平成30年度	テーマ	地域産業の育成	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	本市には国指定名勝である松花堂、日本遺産、京都府景観資産である流れ橋周辺に広がる浜茶の景観、松花堂昭乗や松花堂弁当に代表される茶事の文化等豊かな自然・歴史・文化資源が存在し、さらに平成28年に石清水八幡宮が国宝指定されるなど、観光資源の魅力が増しており、観光誘客に対する機運が高まっている。 こうした機をとらえ、八幡の魅力である地域資源について市民が改めて理解し、触れることを通じて生活が豊かになり、まちへの愛着や誇りである「シビックプライド」を醸成していくことが、地域資源を今後も維持していくために重要である。 観光客の増加を図るため、松花堂昭乗による「おもてなしの茶文化」を再認識し、市民の中に「おもてなしの心」を育む。						
プロジェクトの目的及び概要	<ul style="list-style-type: none"> ・やわた流れ橋交流プラザ「四季彩館」を核に、石清水八幡宮から松花堂・円福寺を結ぶ東高野街道沿いを戦略的な交流拠点として整備する。 ・やわた流れ橋交流プラザ「四季彩館」は、木津川流れ橋を含め河川敷に広がる茶畑景観のビューポイントで、年間10万人の来場者がある。さらに、石清水八幡宮から南へ延びる東高野街道沿いには、お茶に関わる施設を含め、歴史的な観光資源が点在する。これらを活かし、地域の活性化を図る。 ・お茶の京都の取り組みを一過性のものとせず、松花堂弁当のPRなど「食」を含めた広がりのある取り組みへと発展・継続させる。 ・市民が八幡市の自然や歴史、文化芸術に触れる機会を通じて、生活が豊かになるとともに、街への愛着と誇りを高める。 						
	総事業費（千円）	47,998	本年度事業費（千円）	36,648	交付金額（千円）	10,129	
プロジェクトを構成する事業の平成30年度事業実績（出来高数値等）							
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）		
市町村 実施事業	駅前広場管理費	交付対象事業	他市から八幡へ足をのばしてもらえよう八幡の玄関口である駅前のおもてなし環境の整備を行う。		八幡市駅前広場アーケード・待合室改修工事		
	観光振興費（歴史文化ものがたりコンテンツPR）	関連事業	八幡市の魅力を物語調で紹介したホームページのPRを行う。		ウェブコンテンツ「八幡ストーリー」PRと観光情報を雑誌・ウェブに掲載		
住民 協働 事業	市民総合体育大会開催費	交付対象事業	市民間交流の機会を増やし、シビックプライド醸成を図るため、市民参加によるフリーエントリー制総合体育大会を開催する。		大会開催 22競技 参加者 2,520人		
	一般体育振興費	交付対象事業	市民の地元への愛着と誇りを高めるため、八幡市民マラソン大会の開催や公園施設利用に対する助成を行う。		マラソン大会参加者 1,547人		
	文化振興費	交付対象事業	八幡出身の文化人の名を冠した「佐藤康光杯争奪将棋大会」や、市民文化祭を開催し、地域の特性を活かした観光・産業の振興を図る。		文化祭 2日間：舞台発表 43団体 775人 作品展示 483点 405人 他 将棋大会参加者 246人、記念対局参加者 167人		
	文化のまちづくり事業費	交付対象事業	やわた市民文化事業団自主事業に対して助成を行い、八幡の魅力を全国へ発信する。		京フィルクリスマスコンサート 1,072人 他		
	やわた流れ橋交流プラザ事業費	交付対象事業	青少年の健全育成、地域農業の発展及び地域の活性化を図るため、住民と市内農業者等の交流拠点（やわた流れ橋交流プラザ）確保のための事業を委託する。		利用者数 92,262人		
	徒然草文学賞表彰費（補助分）	関連事業	全国から徒然草にちなんだ随筆文を募集し、優れた作品に「徒然草エッセイ大賞」を授与する。		応募数 2,036通		
住民が 取り組む 事業							

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名：八幡市

成果指標 ①	成果指標の目標数値	徒然草文学賞応募者数 2,600通		成果指標の実績値 (31年4月1日時点)	2,036通	
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	目標数値の2,600通には届かなかったが、関連して実施する学生茶会等の文化のまちづくり事業をに関心を持つ層の拡大に寄与した。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
成果指標 ②	成果指標の目標数値	観光入込客数 2,650,000人		成果指標の実績値 (31年4月1日時点)	2,187,672人	
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	目標数値の2,650,000人には届かなかったが、さくらまつりや空中茶室の開催等、観光客のリピーター確保に繋がるようなイベントに触れてもらうことで、観光消費額の増大に繋げる。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
本年度の事業実績が 成果指標の達成に与えた効果	「お茶の京都」マスタープランで戦略的な交流拠点となっている松花堂及び流れ橋交流プラザの強化等を実施することで、住民が誇れる魅力的な施設に寄与した。また、八幡の文化人や地域の特性を活かした事業を実施することで、八幡の魅力を世界へ発信できた。					
※未達成の場合も効果を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方策についても記載すること。					
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	徒然草にちなんだ随筆文を全国から募集することにより、新聞やチラシへの掲載を通じて、全国へ八幡のまちの周知・PRにつながった。				
	府と市町村等との連携に資する成果	「宇治茶」をテーマにお茶生産の景観やお茶文化の発信をするにあたって、府や関係市町村と連携できた。				
	住民の自治意識を高める成果					
	リーディング・モデル成果					
	広域的波及成果	八幡の文化人や地域の特性を活かした事業を実施することで、八幡のまちの魅力を全国へ発信できた。				
	行財政改革に資する成果					

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名：八幡市

	その他の成果	
--	--------	--

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。